

『レボドパ・カルビドパ配合経腸用液療法導入状況に関する調査』 お知らせ

1. 実施目的について

レボドパ・カルビドパ配合経腸用液療法とは、パーキンソン病に適応される治療法のひとつで、空腸に直接薬剤を持続投与することで運動症状の変動を改善し、薬剤数や服薬回数が減少することを期待できます。

当院で実際に行われた患者さまの治療を調査することでレボドパ・カルビドパ配合経腸用液療法による治療への薬剤師の役割を考察することを目的としています。

2. 実施内容について

方法は、2019年10月から2020年10月までに、入院された患者さまのうち、レボドパ・カルビドパ配合経腸用液による治療を行った方のカルテを調べ、性別、年齢、服薬歴、症状の変化や発言等の経過、導入理由、胃瘻造設移行の有無、薬剤師の介入内容についてまとめ、その傾向を検討します。

カルテを実際に調べる作業を行う期間は、これより2021年3月末までです。

3. 研究代表者

大月 慎之助（医王病院 薬剤科 薬剤師）

4. 調査対象期間

2019年10月1日から2020年10月31日までを調査対象期間とします。

5. 個人情報およびプライバシーの保護について

それぞれの患者さまの個人情報は、個人が特定できないデータに変換された上で、データファイルが作成、保存、分析されます。この研究により、個人情報やプライバシーの漏洩や公開は生じません。

この研究の成果は、個人が特定できないデータとして、学術的な場でのみ公表します。

6. 本研究に関するお問い合わせ

上記のように、個人情報やプライバシーを保護した状態であっても、調査対象となることを拒否される場合、また、この研究についてご質問がある場合には、下記までお問い合わせください。

医王病院 薬剤科 大月慎之助

国立病院機構 医王病院病院長 駒井 清暢